

特許検索競技大会

— 特許検索競技大会2016最優秀賞受賞者 特別鼎談 —
特許調査能力のスキルアップについて



2017年8月

IPCC

一般財団法人 工業所有権協力センター
Industrial Property Cooperation Center

— 特許検索競技大会2016最優秀賞受賞者 特別鼎談 —
特許調査能力のスキルアップについて

特許検索競技大会2016
最優秀賞受賞者

特許検索競技大会2016
実行委員

一般財団法人工業所有権協力センター
部門長

堤 奈緒子 × 田辺 千夏 × 竹之内秀明



特許調査は個人で行う事が多く、そのノウハウは個人に蓄積されるとともに、共有化がされにくくなっている。そのため、特許調査能力の向上は自己研鑽に頼ることが多く、組織だった人材育成手法は十分に確立されているとは言えない状況にある。

このような背景のもと、特許調査能力のスキルアップのための手法や、組織的な人材育成手法についてのあり方などについて、特許検索競技大会2016で最優秀賞を受賞された堤奈緒子氏と、特許検索競技大会2016の試験問題の作成等に携わった田辺千夏氏に、IPCCの機械B部門長である竹之内秀明がお話を伺った。

一般財団法人 工業所有権協力センター

(受賞後の意識の変化)

【竹之内】本日は、特許調査能力のスキルアップというテーマについて、堤さんと田辺さんに色々とお話を伺いたと思います。まずは自己紹介からお願いします。

【堤】トヨタテクニカルディベロップメント株式会社の堤です。本日はよろしくお願ひします。普段の仕事は侵害予防調査や無効化資料調査、また技術情報分析をメインに行っ

います。

【田辺】昭和電工株式会社の田辺です。私は特許調査部門のマネージャーとして社内全体の知財リスクのマネジメントや特許調査教育等を行っています。また、自分自身で侵害予防調査や無効化資料調査を行うこともあります。どうぞよろしくお願ひします。

【竹之内】ありがとうございました。それでは、あらためて堤さん、特許検索競技大会2016

での最優秀賞受賞おめでとうございます。参加者数が300人を超える中での受賞は本当にすごいですね。

【 堤 】ありがとうございます。まさか受賞できるとは思っていなかったのですが、通知を受けた時は信じられませんでした。

【竹之内】表彰式のスピーチで、なかなかゴールド認定を取れずに悩んでいたというお話しをされていましたが、大会にはこれまで何回参加されたのですか。

【 堤 】2016年大会は4回目の挑戦でした。過去の大会はシルバー認定までしか取れなかったのですが、今回こそは絶対ゴールド認定を取るぞ！という意気込みで臨みました。

【竹之内】最優秀賞を受賞した後、変化などはありましたか。

【 堤 】まず、同僚やお客様からお祝いの言葉を頂いたことがとても嬉しかったです。また、受賞後に仕事の内容が変わるということはないですが、自信を持って取り組めるようになったと言いますか、そういう意識の変化は感じています。

【竹之内】自信を持って仕事に取り組むということは重要なことですね。受賞がそのきっかけになったのですか。

【 堤 】確かに受賞そのものもそうですが、大会前に行った準備段階の経験も大きかったと思っています。

【竹之内】大会前の準備とは、どのようなことを行ったのですか。

【 堤 】メインは社内での勉強会の運営です。弊社では社内人材の調査能力向上プロジェクトを立ち上げており、私は昨年からのプロジェクトリーダーとして活動しています。本プロジェクトでは勉強するコンテンツの一つとして特許検索競技大会を大いに活用させて頂いています。教材として過去問集を使用したり、又、全体の能力向上に向けたモチベーションアップを図るため、大会の出場メンバーを選抜する社内予選を実施する等もしています。大会へ出場するからには全体としても良い成績を残したいので、大会直前には集中して勉強会を開催し、通常の業務に役立つ情報の提供を主として行い、更にこれまでの大会の出題傾向や最近のトレンドから次大会の出題予測を行ったりもしましたね。社内予選のため



堤 奈緒子(つつみ なおこ)

トヨタテクニカルディベロップメント株式会社
IPコンサルティング事業部 情報解析室
特許検索競技大会2016
ゴールド認定、最優秀賞受賞、団体第一位受賞

の試験問題の作成や、勉強会では講師を担当するなど、プロジェクトを運営する為に多くのことを勉強する必要がありました。

【竹之内】社内で予選まで行っているなんて素晴らしいですね。このようなお話しは大会の試験問題を作成している田辺さんにとって嬉しさもひとしおではないですか。

【田 辺】とても嬉しいです。このような話を伺うと大会運営側の1人としてやりがいを感じます。でも、社内予選用の試験問題の作成は大変じゃなかったですか(笑)。

【 堤 】はい、とても大変でした(笑)。自分で作ってみて、あらためて大会の試験問題を作成されている皆様のご苦勞が分かりました。

【竹之内】社内勉強会というのはどのようなものですか。

【 堤 】社内予選を通過した選抜メンバーを集め、大会の過去問集などを利用して問題を詳細に解説したり、実際に解いて見せたり、細かいノウハウを共有するなど、様々なことを行いました。私はこれまで聞く側だったのですが、教える側になってみるととても大変でした。

【田 辺】教える立場になると、教えられる立場の時よりずっと勉強しますよね。

【 堤 】はい、かなり勉強しました。他のメン



田辺 千夏(たなべ ちなつ)
昭和電工株式会社
法務・知的財産部 知的財産グループ
情報チームリーダー
特許検索競技大会2016実行委員

バーの質問に答えなければならぬので、責任を感じるとともに、良いプレッシャーになりました。

【竹之内】その結果、堤さん自身が優勝されたわけですね(笑)。

【堤】チームのためにという思いで頑張ってきたのですが、結果的に自分自身が一番成長させてもらったようです。このような取組を行い、大会でも優勝という結果を出すことができ、さらに選抜メンバーの多くがブロンズ以上の認定という、全体としても良い結果を残すことが出来たので、自分のやってきたことは間違っていなかったんだと思いました。こうした一連の経験が、今の自信に繋がっています。

(特許検索競技大会への参加価値)

【竹之内】2016年大会の試験問題はどうか、難しかったですか。

【堤】難しかったですね。最近海外調査の重要性も高まっておりますので、海外文献を読み込む問題がそろそろ出てもおかしくないと思っていましたが、やはり2016年度大会では出題されましたね。

【田辺】読まれていましたか(笑)。

【堤】最近の特許業界のトレンドが反映さ

れていたり、簡単な検索式では解答にたどり着けなかったり、本当によく作り込まれた試験問題だと思います。大会がきっかけで、新しい情報を積極的に取り入れる機会も増えました。

【竹之内】大会の試験問題の作成に際しては、何か方針などがあるのですか。

【田辺】問題作成にあたっては、できる限り実務に沿った形式にするという方針があります。また、サーチャーのレベルを定量化することが必要なので、実際に検索を行う問題では、調査結果はもちろんですが、調査プロセスを大切にしています。

【竹之内】なるほど、調査のプロセスは非常に大切ですね。我々IPCCも、特許庁の審査官へ先行技術調査の結果を報告しているのですが、良い公報が見つかったとしても、その過程でどのようなFタームやキーワードを使ったかなどを厳しく評価されています。サーチャーレベルを計るポイントですね。

【田辺】そうですね。発明の構成要素を的確に抽出することができるかといった点を含め、優秀なサーチャーは調査プロセスがしっかりとしている必要がありますから。

【竹之内】しかし、調査プロセスは正解が1つではないので、採点は大変ではないですか？

【田辺】はい。採点基準を作るのはもちろんですが、検索式に関しては参加者一人一人の解答を複数の目で見て慎重に採点しています。

【竹之内】問題の形式は、単に検索の問題だけではなく、特許制度の知識を問う問題も入っていますよね。試験を受けるだけでとても勉強になりそうですね(笑)。

【田辺】12月には大会問題の解答例や解説を行うフィードバックセミナーも開催しています。試験の結果が思わしくなかった方も、このセミナーを受講することで、自身の弱かったところを認識・改善して、次のステップに進んで頂けるのではないかと思います。

【竹之内】そして、また次の大会にチャレンジして、ですね。素晴らしいサイクルですね。堤さんはまさにこのサイクルによるスキルアップを体現されていますよね。

【堤】そう言って頂けると嬉しいです。特許検索競技大会へ参加してから本当に成長



竹之内 秀明(たけのうち ひであき)

一般財団法人工業所有権協力センター
調査業務センター 機械B部門長
元特許庁審判長・審査長

できたと思います。特許調査は個人個人の能力が測りづらいので、特許検索競技大会である一定の基準で客観的な評価を頂くことは、自分の調査能力を客観的に判断できるようになります。田辺さんのお話しにもありましたが、大会後のフィードバックセミナーで自分の足りなかったところが分かるようにもなりますし、次はもっと良い成績を取りたいという意欲も湧きます。

【竹之内】フィードバックセミナーでは、試験問題の解説だけでなく、検索一般の講義を受けられる仕組みが良いですね。

【 堤 】フィードバックセミナーのテキストも教材としてとても良くできていますので、重宝しています。

【田 辺】フィードバックセミナーテキストは参考書としても使えるように工夫しているので、実際にそのように使って頂いていると聞くとありがたいですね。

【竹之内】大会へ参加することで、普段のお仕事にもいい影響が出ていますか？

【 堤 】これまではお客様の依頼に対して、この調査結果で本当に良いのか不安になることがあったのですが、特許検索競技大会に参加するために調査技術を基礎から見直すことで、自分の足りない部分が明確になりますし、

それを克服することで、調査結果に自信が持てるようになりました。

【竹之内】大会に参加する価値は高いと。

【 堤 】はい。特許検索競技大会は特許の調査能力を客観的に測ることができる場なので、調査能力の向上、底上げを図るために弊社も会社をあげて参加しています。認定証をもらえることで個人のモチベーションアップにもつながっていますし、受賞すれば、個人としても企業としても社外へPRもできますので、大会への参加は、様々な面でとても価値あるものだと思います。

【田 辺】特許検索競技大会のコンセプトは、サーチャーのスキルアップですので、まさに堤さんやトヨタテクニカルディベロップメントさんに体現してもらっていますね。

【竹之内】大会への参加そのものが、本日のテーマである、特許調査能力のスキルアップ手法の1つであるということですね。

(特許調査能力のスキルアップ)

【竹之内】さて、特許調査能力のスキルアップについて、すでに色々話しは出ていますが、あらためてお話しを伺いたと思います。まずは、お二人が所属している企業での人材育成方法などを伺わせてください。堤さんの会社ではいかがでしょうか。

【 堤 】まず入社して数ヶ月は特許法を始め、業務に関する様々な研修が実施されます。その後は月に1回程度、所属に関係なく全員を対象にした講義も実施されていますが、基本は先輩からのOJT育成です。

【竹之内】田辺さんの会社はいかがですか。

【田 辺】私の会社では、入社後2年間の研修期間の中で3度に分けて特許調査の研修を行っています。標準的な調査方法についてのマニュアルがあるので、これに沿って研修を行います。その後はOJTで経験を積む形です



ね。

【竹之内】やはりOJTが大切なようですね。IPCCも様々な研修を行ってはいますが、やはり、指導者や先輩サーチャーからのOJTで経験を積んでいくのが主流です。このOJTについてですが、冒頭に堤さんからのお話があったように、教えられる側より教える側の方が勉強になるとも考えられますよね。

【堤】そうですね。今回の大会対策プロジェクトで、私はメンバーへ教える立場になったのですが、メンバーも初心者では無いので深いところまで説明を求められる場面も多かったです。そのためまず自分でやってみて、その上で人に説明できるように細かく理解する必要があります。「何故こうするのか、何故、何故・・・」を自分の中で繰り返して、理由を考えるようになりました。その結果、自分が作成した検索式のプロセスを明確化できるようになって、検索式の一つ一つを整理してお客様にも説明できるようになりました。教える立場になって、普段の業務の中で意識すべきことがよりよく見えてきたと思います。

【竹之内】自分では分かっていたつもりでも、いざ教えるとなると、実は理解していなかったと気づくこともありますよね。田辺さんは社員を教育する立場として、何か意識していることはありますか。

【田辺】自分が行った調査がどう役立ったかを知ることが重要だと考えています。弊社では、

出願前調査については原則各開発部署が自身で行うこととなっています。そこでは調査しきれなかった侵害予防調査等を調査専門の私の部署で調査する仕組みになっているのですが、開発部署と一体となって最終的な結果まで責任を持つことで、調査の必要性を認識することができますし、そうすると自然と調査能力も向上しますね。

【竹之内】同感です。自分の調査結果がその後何にどれだけ影響を及ぼすのかを知るとは、責任感も湧きますし、モチベーションアップにも繋がりますしね。IPCCでは、自分が調査した結果を審査官がどのように利用したかフィードバックがありますし、報告書がJ-PlatPatを通じて世の中に公表されることも大きいですね。

【田辺】弊社でも調査報告書をDB化し、部内で共有しているので、他の担当者が行った調査報告書を参考にしたり、急きょ担当が変わっても同等の調査を行うことができます。このように、後で活用されると思うと、他の人が読んでも理解できる検索式を意識しますね。案件によっては通常と異なる検索を行うこともありますが、こうした例外も含めて共有できるので、経験値の少ない若手にとっては、こういう検索手法もあるのかと、他の人が書いた報告書を読んでスキルアップもできると思います。サーチャーは一人で仕事を行うことが多いのですが、報告書を共有することで、チームワ

【特許検索競技大会とは】

特許調査能力の客観評価と優秀者及び優秀団体の顕彰等を通して、特許調査に関する技術の普及啓発を促すことにより、我が国のイノベーションの促進に寄与することを目的として開催している大会です。本大会では初心者向けのベーシックコース(2017年大会からスチューデントコース)と、上級者向けのアドバンストコースの2コースを設けており、一定レベルの結果を得た方には認定証を交付するほか、アドバンストコースにおいては、特に優秀な成績を収めた方および団体の表彰を行っています。

昨年度の特許検索競技大会2016は、平成28年9月3日(土)に東京・大阪・仙台の3会場で同時開催し、ベーシックコースとアドバンストコースを合わせて395名が参加しました。



クの向上やチーム全体の調査能力の底上げが図られていると思います。

【竹之内】個人個人のスキルアップ手法としては、どのような事例がありますか？

【田 辺】弊社では社員を外部のセミナーや研究会等へ積極的に参加させるようにしています。やはり内部だけでは新たな情報を得たり個人の知識を深めることに限界があるので、外部の人との交流はとても有効です。

【竹之内】対外交流は知見が広がりそうですね。とても良い取り組みだと思います。

【 堤 】弊社も外部のセミナーや研究会等へ出席し、社内共有会で共有するなどして新たな情報を取り入れるようにしています。また、弊社は若手のメンバーが多いので、今後はよりいっそう若手メンバーも積極的に外部のセミナー等へ参加できるよう働きかけているところです。

（特許検索競技大会に参加する方々へ）

【竹之内】お時間も迫ってきましたので、最後に特許検索競技大会の今後についてお話を伺いたいと思います。まず田辺さん、特許検索競技大会の目指すところ、また今後の課題などがありますか。

【田 辺】毎年参加者が増えていて、昨年度は400名近くの参加がありました。しかし私個人としてはまだ不十分と感じています。参加者はリピーターが多いので、新規参加者を増やして裾野を広げていく必要がありますね。例えば、自宅でも学習可能なEラーニングのような形態にするなどして、もっと規模を拡大できた

らと思います。特許調査に携わる人たちが皆一定のレベルで調査ができることが目指すところと思っていますので、大会に参加することで、自分は全体の中でどのレベルにいるのかを常に自覚できる指標として頂ければと思います。

【竹之内】堤さんはいかがですか。

【 堤 】今年度からスチューデントコースを新たに始めると伺いました。コース名から学生をターゲットとしていると思われませんが、私が知財に興味を持ち出したのは学生時代でしたので、私の学生時代にスチューデントコースがあったら是非受けてみたかったです。会社に入る前に特許検索について知識があれば、入社後に必ず活かせると思います。就職活動をする上でも良いPRになるんじゃないかとも思います。学生がより興味をもってくれば、業界全体の底上げにも繋がると思うので、とても良い取組だと思います。

【竹之内】堤さんから最後に、今後特許検索競技大会へ参加する方々へのアドバイスなどがあればお願いします

【 堤 】そうですね、プロセスを丁寧に、明らかにするよう心がけることでしょうか。日々の業務を丁寧に行うことで、自然とスキルアップに繋がっていきます。基本に忠実に丁寧に、そして「必ず何か基本通りにはいかない部分がある」ということを忘れないこと。検索は、これをすれば「絶対大丈夫」ということはないのもう一度見直すことを普段から行う。そうすることで新たな気付きを得ることがありますね。

【竹之内】本日はありがとうございました。

（鼎談日：平成29年6月26日）





IPCC 一般財団法人 工業所有権協力センター
Industrial Property Cooperation Center

〒135-0042 東京都江東区木場一丁目2番15号
深川ギャザリア ウエスト3棟

TEL 03-6665-7850

URL <http://www.ipcc.or.jp>